Advancing Institutional Agenda on Learning and Teaching by Harnessing Open Educational Innovation and Improvement

Toru liyoshi, Ph.D.

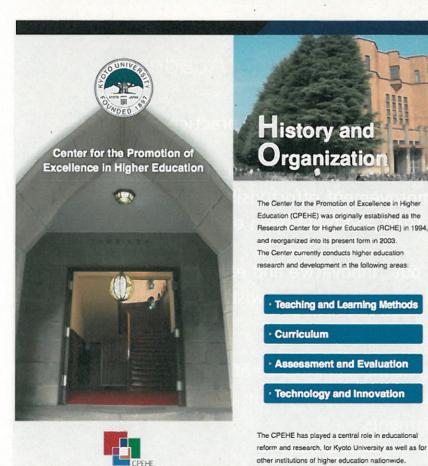
Director & Professor

Center for the Promotion of Excellence in Higher Education

Deputy Vice President for Education

**Kyoto University** 

National University of Tainan Delegation Meeting, June 8, 2015



# Center for the Promotion

# **Projects**

#### Building the Core in Faculty Development

In 2008, the Center launched an ambitious project called "Building the Core in Faculty Development" in coordination with the Ministry of Education, Sports, Science, and Technology. The goal of this project is to build faculty development communities and networks, both face-to-face and online, with a view to faculty development at four levels:

· institutional

· regional

• national

International

## Mutual Faculty Development Core

The Center was designated as a national center that supports and coordinates other higher educational institutions in faculty development by the MEXT in 2010, and given the designation, "Mutual Faculty Development Core."

#### **Building the Core at International Level**

The Center is collaborating with higher educational institutions abroad in building theories of faculty development and sharing effective practices of advancing teaching and learning.

Some of the past and current collaborating institutions include: Stanford University, Harvard University, MIT, Beijing Normal University, etc.

#### Past international symposia and workshops held by the CPEHE:

"How to Collect and Analyze Datz on Student Learning: MOOCs, Active Learning, and Learning Analysics"

ent and Technology to Enhance Deep Active-Learning: Focusing on Learning Catalytics' (October 2013; Guest speaker; Eric Mazur)

"Advancement of Higner Education in the Network Age: Sustaining the Mutual Evolution of Learning and Teaching" (January 2013, Guest speaker: Randy Base & Elizabeth Barkley)

"Deepening Active Learning with Peer Instruction" (October, 2012; Guest speaker: Eric Mazur)

"Portfolios for University Education: from Class Improvement to Curriculum Improvement" (February 2012; Guest speaker. Daniel Bernstein)

"Towards Higher Education based on Deep Learning" (December 2011; Guest speaker; Ference Marton)

"Transition from School (High School/University) to Work" (February 2011; Guest speaker: James Côté)

"The Future of Science Education at Undergraduate Level" (September 2009, Guest speaker: Carl E. Wiem "Building the Core in Faculty Development" (January 2009; Guest speakers: Mary T. Huber, Jennifer M. Robins







#### **Building the Core at** Regional Level

Kansai Faculty Development Association (2008~)

This Japan's largest regional faculty development network was formed in 2008, and it currently has approximately 150 member





#### Building the Core at Institutional Level

Faculty Development Committee (2006~)

- · "Pre-FD" (preparing future faculty) workshop for graduate students · Preparing Future Faculty Program for the Graduate School of Letters

- Kyoto University Student Survey
   Annual teaching workshop for newly hired faculty members







#### **Building the Core at National Level**

Research Forum for the Promotion of Higher Education (1994–) Sharing faculty development activities and related research in Japan University Student Research Forum (2008--)

Exploring the learning and career development of university students

Japan Faculty Development Network (2008~) al faculty development networks and turning them into a

MOST (Mutual Online System for Teaching and Learning) (2009-)

Providing an online environment for sharing educational practices

MOST Fellowship Program (2012–) Offering a one-year fellowship program community of practice using the MOST







# KU Teaching and Learning Academy

- Create a cross-disciplinary community of practice on campus
- Help make faculty members' and departments' educational development and improvement effort visible and sharable so that they can learn from and build upon each other's work
- Search for and "dig out" innovative and effective practice as well as detect challenges, issues, and wishes in teaching and student learning
- Raise the awareness of the significance of continuous educational innovation and improvement among faculty members and departments

# KU Teaching and Learning Academy: Activities

- Support small "niche" topic/theme-based faculty communities of practice → to help them generate some shared ideas and excitement
- Provide institutional mini grants → to turn their ideas for educational innovation and improvement into feasible plans
- Help further develop these pilot projects → to obtain major government and other external fundings to build the necessary support capacity for sustainable effort at all levels (institution, departments, and individual faculty)
- Make the ongoing successes visible and reward them through publicity, multimedia SoTL portfolios, and educational innovation fairs → to create community culture and values

**Open Education** 

- "How can we advance teaching and learning by taking full advantage of open education?"
- A hardcover book + free online distribution with Creative Commons
- 30 chapters by 38 prominent leaders and visionaries (Foreword by John Seely Brown)
- Lessons learned and visions of the future from: OKI, IMS, CNI, Sakai, Moodle, ETUDES, iCampus, VUE, Mellon Foundation, OCW, Connexions, OLI, MERLOT, OpenLearn, SOFIA, Creative Commons, LAMS, Hewlett Foundation, CASTL, VKP, ISSOTL, Open University, Educause, Carnegie Foundation, and more

http://mitpress.mit.edu
Search: "opening up education"

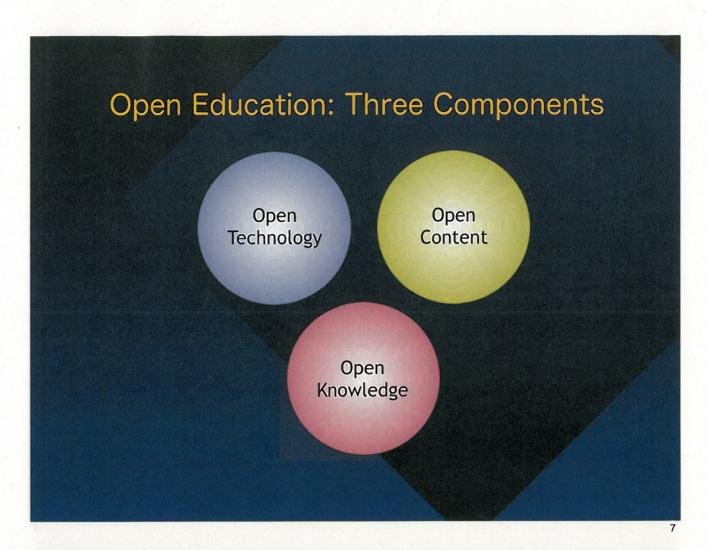
# OPENING UP EDUCATION

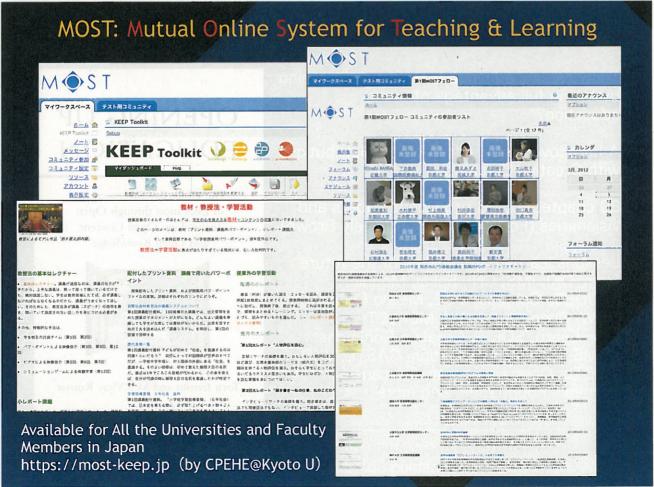
The Collective Advancement of Education through Open Technology, Open Content, and Open Knowledge



Toru Iiyoshi and M.S.Vijay Kumar

Carnegie Foundation's Book on Open Education (August 2008, MIT Press)









現在の登録者数554名 | コミュニティ83件 | スナップショット1775件

#### MOST GALAXY

#### 概要

- ・組織的FDポートフォリ オ (関西FD)
- ・コースポートフォリオ
- \* MOSTZIO-
- SOTLの事例
- 授業/コースの改善
- · 組織的FD活動
- \* Web公開授業
- ロバスワード再発行
- 利用規約
- ロ ブライバシーポリシー
- ロライセンス
- MOSTヘルブ



M.ST 譜習会実施中



お問い合わせ



Gallery of Teaching & Learning

## 第1-- 第1-- スナップショット・ギャラリー

特徴ある授業実践をおこなっている10名の大学教員で構成される「第1期MOSTフェロー」によるスナップショッ トです。MOSTフェローは、1年間かけて、対面・オンラインで継続的に交流しながら、自身の授業実践のスナップショットを作成しました。MOSTフェローの授業実践の成果は、第19回大学教育研究フォーラムの個人研究免表 (MOSTトップへ)







#### ■ スナップショット・ギャラリー



石村源生先生(北海道大学)



他者を意識することによる活動の 長田尚子先生(清泉女学院短期大

CoSTEPでは、毎年一般からプロジェクトを公募し、適切なものを一年間の 実習授業として組み入れている。2012 年度は、「北海道における津波防災 教育プログラムの実施」をテーマとした実習授業を実施する予定である。特 に昨今は、昨年の東日本大震災の教訓を 踏まえ、防災教育に対する社会的 ニーズが高まっている。北海道は災害の多い地域であるが、広範囲に及ぶ地域のそれぞれで事情がことなり、プログラ ムのカスタマイズが必要であ る。また、一方向的な「啓蒙」ではなく、双方向的なコミュニケーション活 動が有効であると考えられる。何箇所か地域を 絞り込みつつ、それぞれの 地域にあった防災教育プログラムを実施する予定である。

→ 第19回大学教育研究フォーラム・発表スライド

清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科における2年次の必修科目 である「卒業研究セミナー」について記述する。本学科の「卒業研究セミナー」は、各コースに関連する専門的な学習内容を応用したり発展したり することを目的に、専任教員によるゼミとして運営されている。このボートフォリオでは、認知科学を応用して情報発信の「分かりやすさ」につい で奨求しているゼミの活動を紹介する。本年度の授業改善として行った他 ゼミとの連携やピアレビューを通じて、高校生向けの広報紙の制作活動が 深まっていく過程を報告する。 → 第19回大学教育研究フォーラム・発表スライド



#### アクティブラーニングを導入した授業改善:「森林水文学」

橋本 哲(島根大学 生物資源科学部)

現代の高度な情報社会において、教室で行うことに意味のある改集を検索した。その方向性として、原動的学習と学生時士のコミュニケーションにより、知識の定義と理解の深化が実現されるものを考えた。この投算ア ザイン機能過程の特徴は、学内教育開発センターの教員との時勤的協働により、私という人間が実行できる投棄を実験的に検索していったことである。

及 第 名 : 森林水文学 (専門科目、選択) 対象学生 : 生物資源科学部の3回生 (生態環境科学科の学生が主) 人 数 20名から30名程度 目 的 : 山地森林武城における水循環の特性を理解・把握し、森林 を水循道という側面から考え開すること 学生評価: 別末試験のみで行った。

毎回、レジュメ・資料を配布し、一方向的な調査を行っていた。 わか りやすく協力的いて説明したつもりではあった、理系科目でもおり 学点べき事項は少なくはない。 これを授集中に誤難しようと思えば隣 機形式しか考えることができなかった。 消除は、 栽科書を抱むよりは 理解しやすくなるように心がけていた。これが授業に出席する者への アドバンテージであると考えていた。

3. 改善的の授業や料目に対する考え方

学賣過程に関しては学生の自主性に任せるものであり、学生から教員 ヘのアクションがない機の干浄するべきではない、出席点は成績評価 には考慮されない、学習過程の能実として期末試験で機動が決されて よい、学生の適慮度には大きく周知しない、すべて学生の責任であ

#### 改善前の分析と改善に向けて

これまでの私の授業に対する学生の反応には、「理解しにくい」とい うものが多かった、学生の成績は優して悪かった、大学を取り着く状 況として、学生の責任だけにしておけなくなってきた。改善が必要で

あった
インターネットなどにより、利目に対する情報は教室外でにいくらで
も入手できる。講教形式の授業ならば、適性前の授業や訓練があれば
いい、ということになる、大学の政策で行う研集を自義あるものが
デザインを探して中心の変がある。しかも、私の能力や私の個性を大
さく変えることなく会談別能であるものを関連したい
大学授業に関する私の見名の考え方を以下におげる。

最初に、私の投票に対する考え方を高さんに問いていただき。協調学 学習項目量の減少 響を基盤とした授業デザインの改善を行っていった。 そして次のよう な改善過程を終た。

第3子ザイン 第2子ザインをベースとしてさらに改良をしたもの。それぞれのグルー ブが1つのテーマではなく、授業内ですべてのテーマについて検討し た上で、発表前に始当テーマを発表する。この授業はWeb公別授業で 配性した 結果、予算をしている学生が少なく、授業で期めてデーマに向き合う ためテーマを検討する特別が完全ではない

第3デザインの発展版としてジグゾー法を行う

結果: 一般効果が高いような印象であった。授業後の学生アンケートでも、ジグゾー法による授業刑罪が一番高い評価を受けた

いずれのアザインでも、発表された課題に対して私が評価した。また。グループテ賢、成果発表を適じて得た情報を個人で整理してレポートとして提出させた。



協調学習は授業改造的に対して学習項目が減少した 対策として、授 策で押さえておきたい事項をすべてテキスト化すればよい、調整形式 の授業で学生に当て内容を口道レベルでテキスト化しておけばおとは 学生が読めばよい。

しか委えないため、時間が足りない。

第2字ザイン
同じく担い項目の後、クラスを5~6つ程度のグループに分けて
それのようしてこのテキストを含ませ速度に取り指求せておき、侵震においてグループにより速程を持えり表表し、学生が自互に学んでゆく
いつがを理想としたが、予算をやらない学生が多い、予算をいかた
ささるかは仮えして記念を行う

グループによる検討課題をいかに上手に設置するか?知識理解の確認 ができなおかつその知識を使用して考えることができるような課題を 与える必要がある



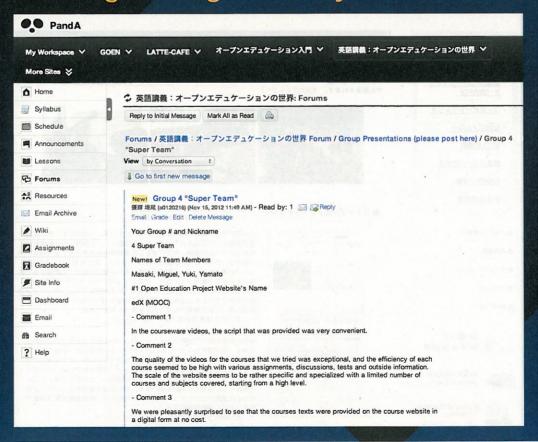
#### Web公開授業への参加

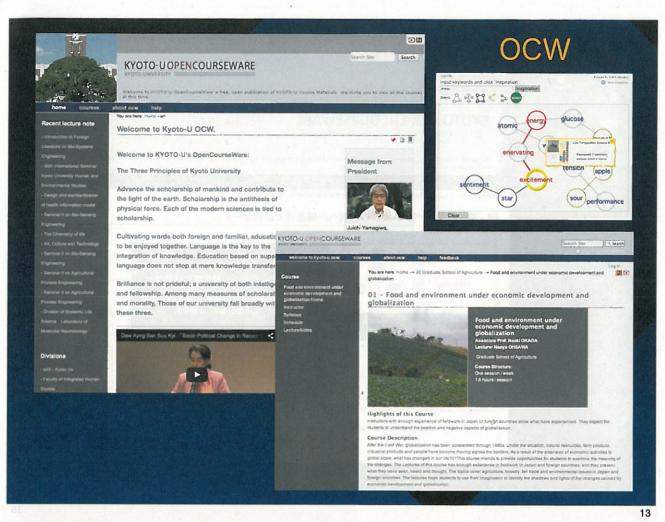
第9回目の授業をWeb... 地方率で公同し、2008年10月27日から11月 10日に、授業者も含めた51名でWeb上で授業検討会をおこなった。多くの方にコメントや質問をいただいた。

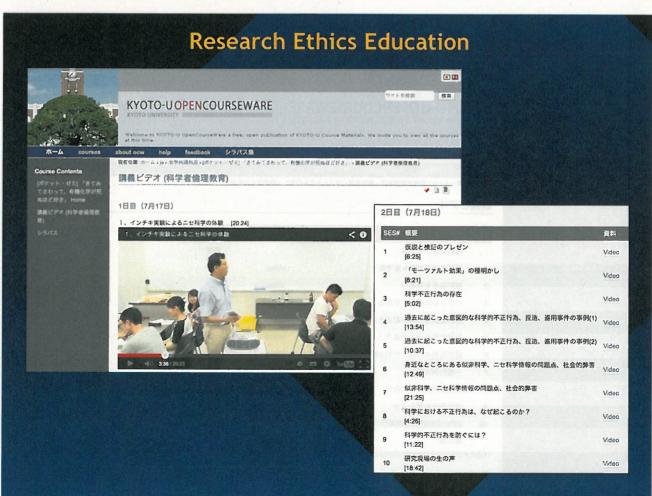
・投票デザインの結果としての学生の活動を評価していただいたこと は自信になった。

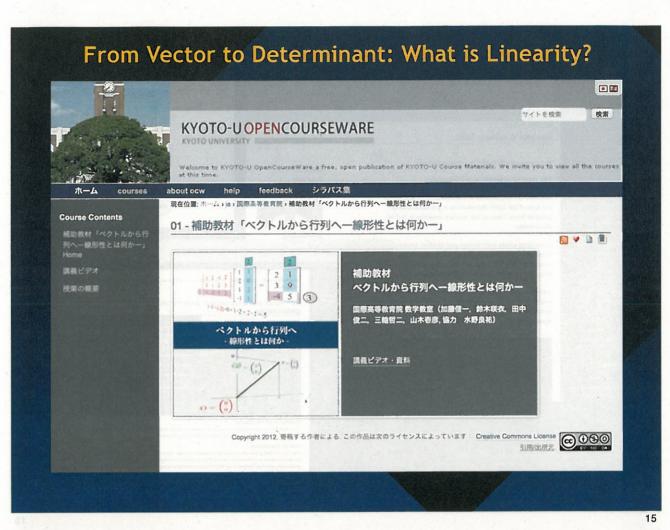
Sharing Effective Practice in Course & Curriculum Improvement

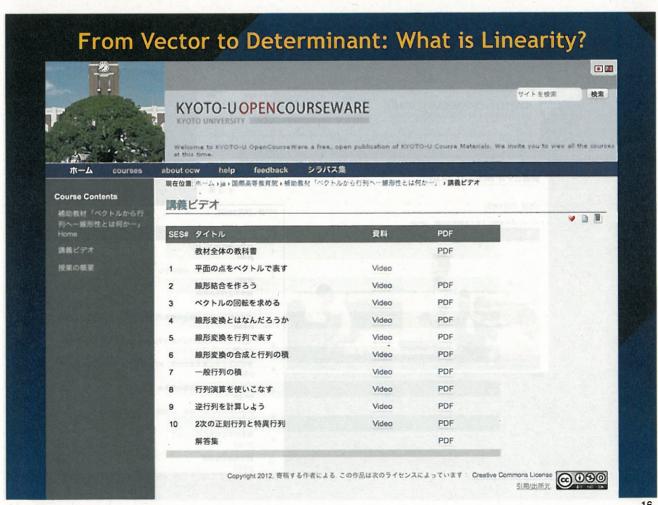
# Learning Management System: PandA



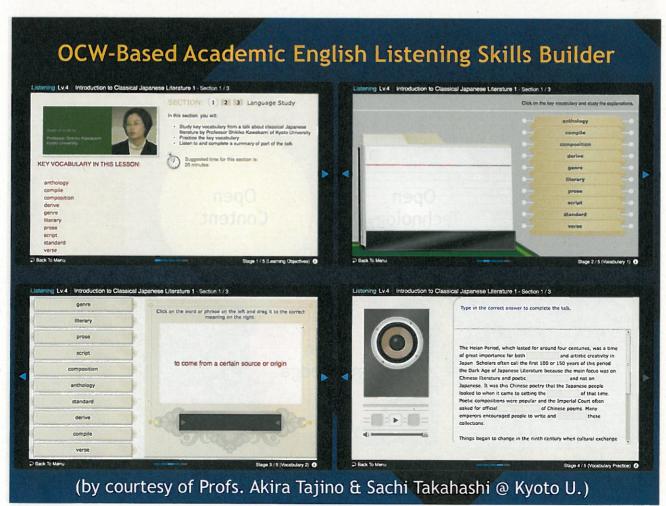


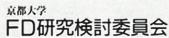






## From Vector to Determinant: What is Linearity? Lesson 1 操作の順序 銀閣寺 今出川通 京都御苑 京都大学 白 丸 端 K. J 111 通 通 通 南禅寺 丸太町通 平安神宮 河 東 大 路 御池通 右⇒左→ 条通





ホーム > おすすめ授業

#### 委員会について

- » 委員会概要 → 委員長挨拶
- → 規程
- → 活動日誌

#### 委員会の活動

- → 共催・協賛

#### 勉強公

- > 動物合
- → 投業評価ワークショッ

#### 教育・学習実態調査

→ 自学自習等実態調査

#### リソース

- » 委員会刊行物
- → 部局のFD
- → 全学の教育改善
- → 部局のFDリソース
- ⇒ おすすめ授業

#### リンク

- → 学内・学外
- → PandA (学習支援サ ーピス)

### おすすめ授業

#### 京都大学OCWから おすすめ授業

京都大学OCW (OpenCourseWare) (http://ocw.kyoto-u.ac.jp/) では、これまで に2,000もの講義ビデオが蓄積されてきました。このような講義ビデオは、視点を変 えると、大学教員にとって自分自身の授業をよりよくするために参考となるアイデア やヒントの宝庫とも言えます。以下に、京都大学OCWより推薦された、授業改善のた めに参考となる「おすすめ授業」を掲載しています。今後も、FD研究検討委員会と OCWとの連携により、アクティブラーニング根授業や英語での授業など、授業デザ インや教室内で実際に教える際に役立つ調義ビデオを紹介していきます。

#### [ 中国文字文化論]

阿辻 哲次 (人間·環境学研究科 教授)

授業形態: 講義/対象: 全回生

URL: http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/general-education-jp/h207001

#### おすすめの理由

先生が中国で撮影された写真、集めてこられた青銅器の複製品や文献などを示し ながら講義が進められるため、その時代の技術、それによって残された文字がど のようなものであったか、学生が因果関係を理解しやすいものとなっています。 授業で用いられるパワーポイントにおいては、提示された文献・資料画像の本物 が展示されている特物館の紹介が多くあり、授業だけに収まらない学習意欲を促 進しています。丸善出版の「京大人気講義シリーズ」で取り上げられた先生の講

(京大人気講義シリーズ 漢字文化の源流)

#### ■ 「有機分子たちを考えて日常生活を理解しよう」

年光 昭夫 (化学研究所 教授)

授業形態:ゼミ/対象:1回生/期間:2012年度・前期 URL: http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/general-education-jp/S176001

お願い合わせ

検索

文学研究科 連続公開セミナール・検討会



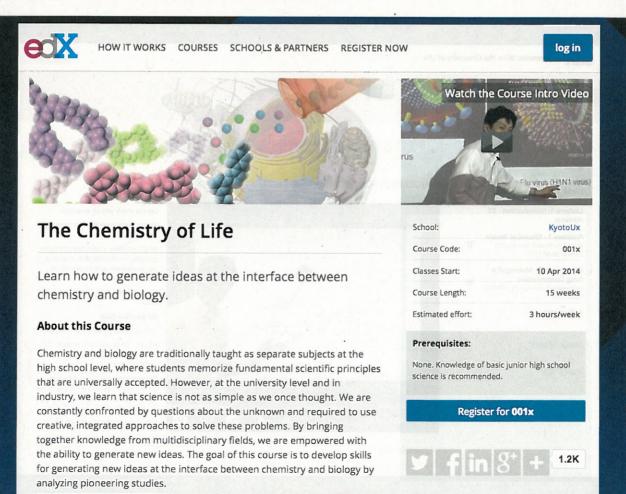


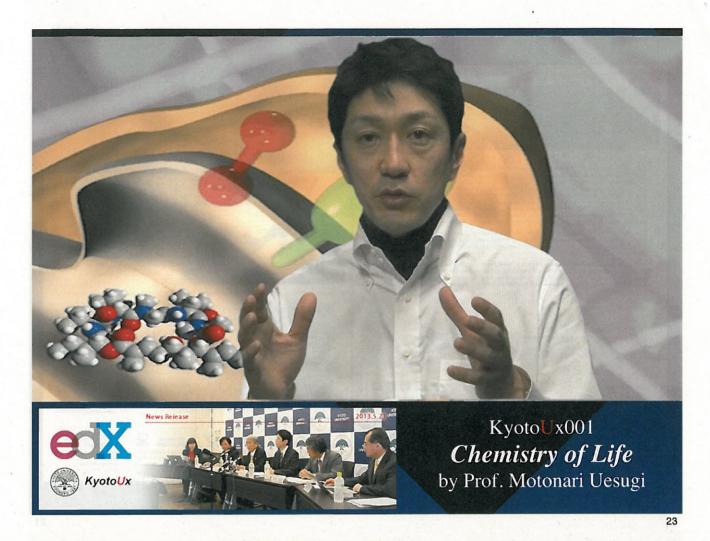


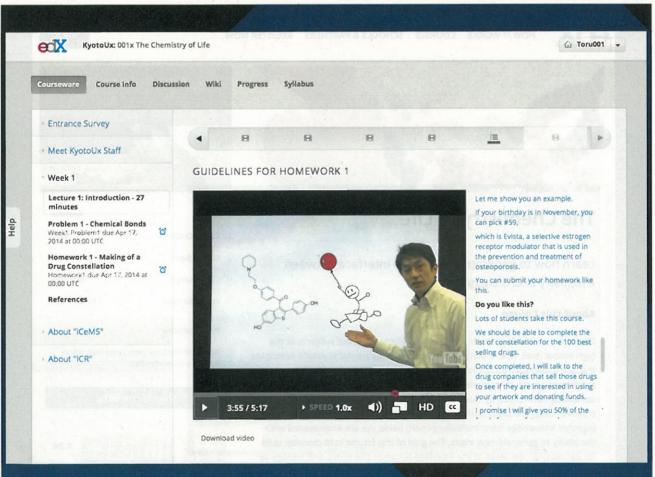
各部局の授業評価

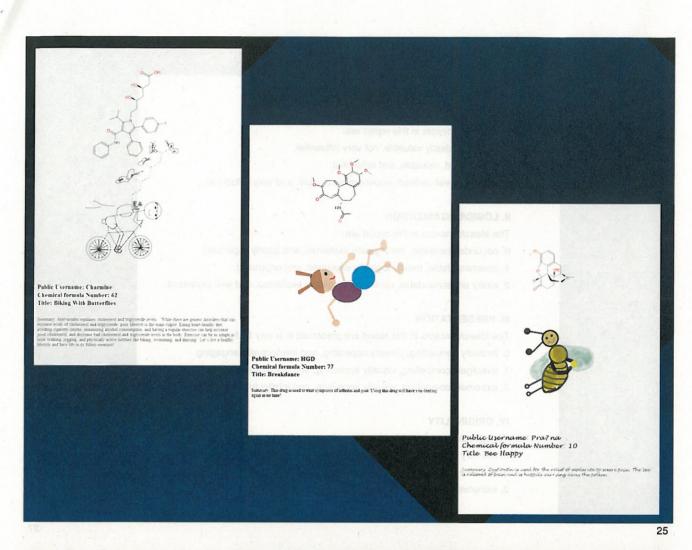
# Open Education: Three Components Open Open **Technology** Content Open Practice Open Knowledge

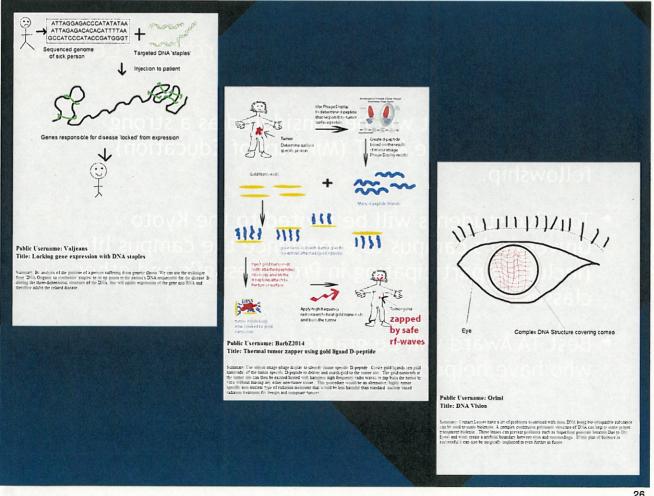












## Peer Evaluation Rubrics

#### I. SIGNIFICANCE

The ideas/concepts in this report are:

- 0. vague, modestly valuable, not very influential.
- 1. well-defined, valuable, and influential.
- 2. extremely well-defined, enormously valuable, and very influential.

#### II. LOGIC/ORGANIZATION

The ideas/concepts in this report are:

- 0. not understandable, nor logically explained, and poorly organized.
- 1. understandable, mostly logically explained, and organized.
- 2. easily understandable, clearly and logically explained, and well organized.

#### **III. PRESENTATION**

The ideas/concepts in this report are presented in a way that is:

- 0. limitedly compelling, visually appealing, and intellectually engaging.
- 1. averagely compelling, visually appealing, and intellectually engaging.
- 2. extremely compelling, visually appealing, and intellectually engaging.

#### IV. ORIGINALITY

The ideas/concepts in this report are:

- 0. not very unique and/or currently existing,
- 1. somewhat new, unique, and creative.
- 2. extremely novel, ingeniously creative, and mind-blowing.

27

# KyotoUx 001: Three Special Rewards for Learners

- The best student will be considered as a strong candidate for the MEXT (Ministry of Education) fellowship.
- Top five students will be invited to the Kyoto University's campus to experience the campus life (including participating in Prof. Uesugi's and other classes).
- Best TA Award will be granted to some select students who have helped other students voluntarily.

(Announced at the press conference on Nov. 1, 2013)







ライフ

## 京都大のネット無料配信授業 1万9千人のうち上位 6人招待

2014.7.8 12:35

京都大は8日、世界トップレベルの大学がインタ ーネットで講義を無料配信するオンライン教育機関 「edX(エデックス)」を通じて4月から配信し ていた授業で、成績が上位だった国外の6人が来日 したと発表した。京大が招待していた。

6人はベトナム、ラトビア、セルビア、ペルー、 米国、フィリピン出身の10~20代の大学生や社 会人で、エデックスで上杉志成教授の授業「生命の 化学」を英語で受講。ミニテストや宿題の評価が、 世界中の受講者約1万9千人の中でトップクラスだ



ッツイート 17 F Recommend 2

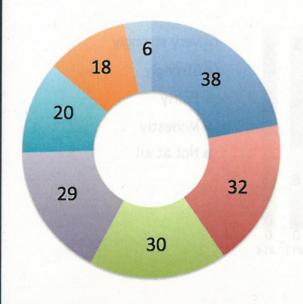
【浪速風】

京都大が招待したオンライン教育機関「edX (エデックス)」の優秀者

6人は京都に1週間ほど滞在する。経済的な理由で大学を途中でやめたというフィリピ ンのエース・スペンサー・アポロニオさん (17) は記者会見で「もともと化学が好きで はなかったけど、この授業のおかげで興味が湧いた」と話した。

KyotoUx 001x KyotoUx 001x "Chemistry of Life" "Chemistry of Life" Blended x Blended

# Q. What are you expecting to gain from KyotoUx 001 "Chemistry of Life"?

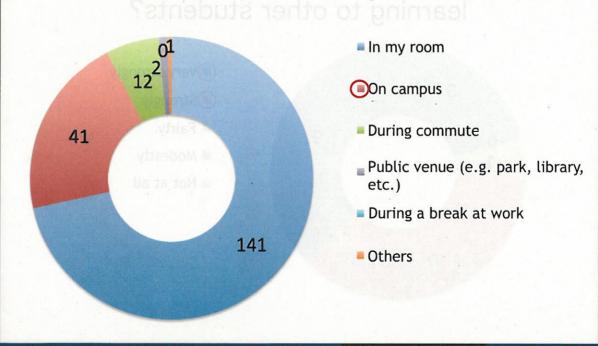


- Abilities to generate new ideas
- Basic knowledge of biology and chemistry
- Learning in English
- Advanced knowledge of biology and chemistry
- Experience in learning with MOOC/Internet
- Intellectual interactions with learners around the world
- Abilities to utilize Internet/ICT for learning

(By courtesy of Shuhei Kimura, 2014)

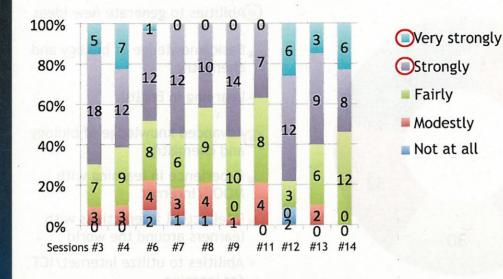
33

# Q. Where did you take KyotoUx 001?



(By courtesy of Shuhei Kimura, 2014)

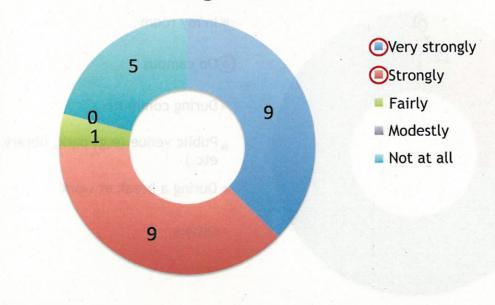
# Q. Did F2F class session help your learning and understanding from KyotoUx 001?



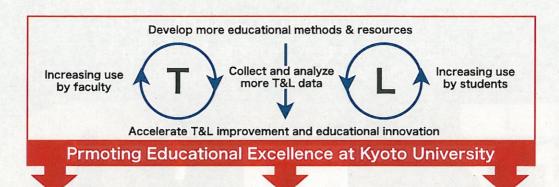
(By courtesy of Shuhei Kimura, 2014)

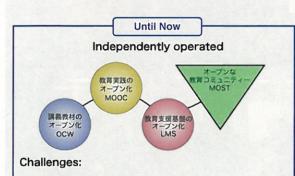
35

# Q. Do you recommend this type of blended learning to other students?



(By courtesy of Shuhei Kimura, 2014)





- ·More faculty engagement
- More student involvement and use
- Lack of learning and teaching data collection and analysis
- Insufficient support capacity and infrastructure for faculty and students

# From Now Integrated & Synergistic 議義核材の オープン化 OCW オープンな MOOC

- More systematic design, development, and evaluation of educational resources and tools
- · Providing effective educational content and methods
- Visualizing learning and teaching process and outcomes
- Building advanced learning and teaching support models for more holistic and sustainable educational improvement and quality assurance

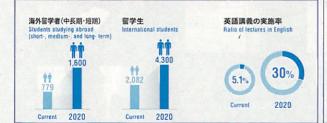
Develop more educational methods & resources

Increasing use by faculty

Collect and analyze more T&L data

Accelerate T&L improvement and educational innovation

Prmoting Educational Excellence at Kyoto University



- Increase the number and diversity of international students
- Increase the number of Japanese students who study abroad
- Create joint/double-degree programs with international institutional partners
- Provide educational quality assurance with the international standards
- Promote the shift from "learning English" to "learning in English"

Institute for Liberal Arts and Sciences

## **Kyoto University Global Academy**

Graduate School of Advanced Leadership Studies

Enable Kyoto University students to take courses online towards degrees while they are studying abroad Enable international students to take online courses from their home countries

Reach out to students and faculty around the world through OCW and MOOC

Provide advanced online courses (medicine, engineering, mathematics, chemistry, Japan studies, etc.) via MOOC and LMS

Provide faculty development courses for global education (e.g., teaching to international students)

